

交通博物館の概要—文書資料を中心に—

交通博物館 佐藤 美知男

1 交通博物館の概要

交通博物館は1921年（大正10）に鉄道開業50年記念事業として、当時の鉄道省（国鉄）が東京駅北側高架下に鉄道博物館を開館したのがはじまりです。1923年（大正12）の関東大震災で被災しましたが、1925年（大正14）に再開しました。しかし場所が手狭だったため1936年（昭和11）に現在の神田須田町に新築移転しました。太平洋戦争中は空襲激化のため一時休館しましたが、幸いにも被害はまぬがれました。

戦後の1946年（昭和21）に、運営を財団法人日本交通公社に委託し、館名を交通文化博物館と改め、鉄道だけでなく陸海空すべての交通機関を扱うことになりました。そして1948年（昭和23）から交通博物館となっています。国鉄の分割民営化により、1987年（昭和62）に博物館の設置者はJR東日本となりました。なお、運営は1971年（昭和46）から財団法人交通文化振興財団が受託しています。

なお、当館は2006年（平成18）春に閉館し、2007年（平成19）秋にはさいたま市に鉄道博物館が開館する予定で、現在、運営予定者である東日本鉄道文化財団を中心に、準備が進められています。当館の資料もそちらに引き継がれます。

2 館の資料概要

交通博物館の収蔵資料は約28万点で、およそ70～80%が鉄道関係です。展示中のものは約2,000点で、鉄道を主に、陸海空の交通機関の実物や模型が中心になります。ですから当館には、機関車や自動車、船や飛行機の実物や模型しかないと思っている方もいらっしゃるようですが、図書資料や文書資料も多数所蔵しています。実物の蒸気機関車1台も切符1枚も資料としては1点ですから、数から言えば収蔵されている資料が圧倒的に多いことになります。資料の中には、国の重要文化財や鉄道記念物（国鉄・JRの文化財保存規程）に指定されているものがあります。

今回は当館の資料の中でも、文書資料を中心にをご紹介します。

3 主要文書資料

(1) 鉄道古文書

1870年（明治3）から1893年（明治26）まで、鉄道を主管した官庁の公文書綴り全91冊の簿冊です。この間、組織は鉄道掛、鉄道寮、鉄道局、鉄道庁と変化しました。

予算・建設・組織など、日本の鉄道創業期を記録した基礎資料として、国の重要文化財及び鉄道記念物に指定されています。

(2) 通信省公文書

鉄道古文書に続く鉄道記録公文書です。1892年（明治25）から1908年（明治41）まで、鉄道が逓信省の管轄であった時期（鉄道局、鉄道作業局、帝国鉄道庁と変遷）のもので、簿冊が148冊あります。

(3) 鉄道院・鉄道省文書

国有化された全国の私鉄に関する文書を会社ごとに集約した簿冊で、770冊あります。監督官庁である鉄道院・鉄道省などに提出された申請やそれに対する許認可の控、及び各社の営業報告書が主です。1881年（明治14）の日本鉄道会社の文書から昭和戦時期までの、被買取鉄道の基礎資料です。

(4) 地方鉄道文書

地方鉄道や軌道が監督官庁に提出した文書を会社ごとに集約した簿冊で、貨物専用鉄道や免許失効などで開業に至らなかった鉄道も含まれています。年代的には1896年（明治29）から1958年（昭和33）で、1,004冊あります。鉄道院・鉄道省文書と同様に、申請や許認可、営業報告書などが主です。

(5) 鉄道公報

官報の鉄道版にあたり、法令や告示、通達などの基本事項を周知するための刊行物です。鉄道国有化後に帝国鉄道庁が発足した1907年（明治40）から、1987年（昭和62）の日本国有鉄道最終時までの約80年分が揃っています。

(6) 国鉄修史資料

国鉄が『日本国有鉄道百年史』（1969～74年刊行・別巻を含め全19冊）を編さんしたときに収集・利用した資料群で、原文書、複写資料、写真、図書など、約4,500点です。

(7) 近世交通資料

かつての国鉄中央鉄道学園が収集した近世交通関係各種文書約1,500点です。江戸時代を中心として、公家・大名家文書や宿場・町方文書、道中記や手形、名所案内や絵図・海路図などがあります。

(8) 一般文書資料（個別資料・単独資料）

上記の資料群とは別に、国鉄から引き継いだものや個人からご寄贈いただいたもの、あるいは古書店で購入したものなど、随時収集した各種文書資料約5,300点があります。これらの中にも貴重な資料が多数あり、当館独自の分類表に従って分類されています。

4 特別コレクション

(1) 佐藤政養コレクション

明治初期の鉄道建設や開業に尽力した^{てつどうのすけ}鉄道助・^{まさよし}佐藤政養が遺した文書や地図類32点で、このうち、最初の鉄道建設予算メモなど8点が鉄道記念物に指定されています。

(2) 時刻表コレクション

明治の鉄道開業時から現在までの各種時刻表です。時刻表は列車の運転時刻や所要時間、運賃など、運輸・営業関係の情報資料です。冊子体の月刊時刻表を中心に継続収集しており、1953年（昭和28）以降は毎月の時刻表が揃っています。また一枚物の時刻表を含め、過去の欠号補充にも努めています。

(3) 鉄道錦絵コレクション

文書資料とは少し異なりますが、明治初期を中心とした多色刷り木版画の錦絵は、時代の息吹を伝えてくれます。鉄道を題材としたものは350種類くらい発行されたと推測していますが、当館ではそのうちの300点近くを収集しています。

(4) 岩崎渡辺写真コレクション

文書資料ではありませんが、明治時代の機関車や客車、駅や線路などを、ガラス乾板で撮影した写真で、約3,000枚以上あります。明治時代の鉄道の貴重な画像記録です。

(5) 図書資料

交通関係の年鑑、統計書、技術書、解説書、歴史書、写真集などの図書と、専門誌、趣味誌などの各種交通関係雑誌を収集しています。蔵書数は約31,500冊です。

5 二次媒体化と今後

上記の資料群のうち、鉄道古文書、逓信省公文書、鉄道院・鉄道省文書、地方鉄道文書、鉄道公報、佐藤政養コレクション、およびごく一部の一般文書資料がマイクロフィルム化されています。画像のデジタルデータ化は、画像保存を目的として、貴重度の高い岩崎渡辺写真コレクションから試行中です。なお、資料全体のデータベース化も進行中で、新館に引き継がれます。また、一般文書資料はいずれ体系化が必要な文書群です。これら二次媒体化や再整理も、新館での将来の業務になります。

6 公開（閲覧）方法

文書資料は、事前予約制で平日（原則として火～土）に閲覧できます。マイクロフィルム化されている資料はマイクロリーダーによる閲覧で、それ以外の資料は原本閲覧になります。マイクロフィルムのみコピー可（有料）です。

図書資料（時刻表を含む）は、日曜日と祝日のみ図書室を公開しており、そこで閲覧できます。コピーはいたしておりません。

データシート

平成17年8月末日現在

- ・機関名：交通博物館
- ・所在地：〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-25
- ・電話/FAX：03-3251-8481/03-3251-8489
- ・ホームページ：http://www.kouhaku.or.jp/
- 交通：JR線 秋葉原駅（電気街口）徒歩4分
地下鉄 丸ノ内線淡路町、銀座線神田、千代田線新御茶ノ水、都営新宿線小川町各駅（徒歩4~5分）
つくばエクスプレス 秋葉原駅 徒歩5分
- ・開館年月日：1921年（大正10）10月14日 鉄道博物館として開館
- ・組織
 - 館長一菅 建彦
 - 交通博物館
 - 総務部門
 - 学芸部門
 - 事業部門
- ・建物：鉄筋コンクリート造、地上3階（一部4階）
- ・建物面積 7,554㎡
- ・主要資料（平成17年8月末日現在）
 - (1) 重要文化財及び鉄道記念物：3件（1号機関車、1号御料車、鉄道古文書）
 - (2) 鉄道記念物：9件（弁慶号機関車、善光号機関車、鉄道国有法案説明草稿、他）
（他に準鉄道記念物1件）
 - (3) 主要実物資料：C57形蒸気機関車、マレー式蒸気機関車、0系新幹線電車（部分）、丸木舟、船首像、T型フォード、スバル360、アンリ・ファルマン飛行機、ベルヘリコプター、駕籠、輦台、など
- ・開館日数/利用者数（平成16年度）：320日/340,900名
- ・主な事業
 - (1) 交通関係資料の常設展示
 - (2) 交通関係資料の収集保存
 - (3) 交通関係資料の閲覧公開
 - ・参考調査（レファレンス）
 - (4) 交通関係特別展、催事、各種教育活動の実施
- ・入館料：大人（高校生以上）
310円 子供150円

